

平成23年行政事業レビューシート (国土交通省)

事業名	既存ストックを有効に活用した効率的な踏切対策に関する検討経費		担当部局庁	都市局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	H22/H23		担当課室	街路交通施設課		課長 西植 博		
会計区分	一般会計		施策名	8-32 道路交通の円滑化を推進する				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	-				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	開かずの踏切などに対して、低投資で早期に効果を発現させるため、踏切遮断時間表示システムの高度化や駅構内通路等の活用に関する検討を行い、既存ストックを活用した効率的な踏切対策を推進し、踏切利用者の安全な歩行者空間の確保を図ることを目的とする。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	開かずの踏切などに対して、低投資で早期に効果を発現させる対策として、踏切遮断時間予測を活用した遮断時間表示システムの高度化や、踏切に隣接する駅の構内通路を迂回路として活用するための効果的手法に関して検討を行い、運用面の検討を行うとともに、地方自治体が参考として利用できる条件、基準、手順等に関する導入マニュアルを策定する。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求		
	予算の状況	当初予算	-	-	58	13	-	
		補正予算	-	-	0	0	-	
		繰越し等	-	-	0	0	-	
		計	-	-	58	13	-	
	執行額	-	-	58	-	-		
執行率(%)	-	-	99.6%	-	-			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	踏切利用者の安全な歩行者空間の確保		成果実績		-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	既存ストックを有効に活用した効率的な踏切対策の導入マニュアルの策定		活動実績 (当初見込み)		-	-	-	(-) (-)
単位当たりコスト	-		算出根拠					
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	道路交通円滑化推進費	13	-	-				
計	13	-						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>・開かずの踏切などに対して、低投資で早期に効果を発現させる対策として、平成22年度は踏切遮断時間予測を活用した遮断時間表示システムの高度化や、踏切に隣接する駅の構内通路を迂回路として活用するための効果的手法に関して検討を行ったところ。</p> <p>・平成23年度は、運用面の検討を行うとともに、地方自治体が参考として利用できる条件、基準、手順等に関する導入マニュアルを策定する。</p> <p>・今後は、策定された導入マニュアル等を活用して、鉄道事業者や地方公共団体による踏切対策を推進していくことが重要である。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
廃止③	<p>本検証業務については廃止することとするが、本検討結果で得られた知見を活用し、地方公共団体等による効率的な踏切対策の実現に向けた取組みを行う。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
廃止			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

国土交通省
58百万円

〔 既存ストックを活用した効率的な踏切対策を推進 〕

【企画競争】

A. 公益法人(2社)
58百万円

〔 踏切遮断時間予測を活用した遮断時間表示システムの高度化や、踏切に隣接する駅の構内通路を迂回路として活用するための効果的手法に関する検討 〕

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 百万円)

A.(財)国土技術研究センター			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
	駅の構内通路を迂回路として活用するための効果的手法に関する検討	30			
計		30	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)国土技術研究センター	駅の構内通路を迂回路として活用するための効果的手法に関する検討	30	1	100.0%
2	(社)日本交通計画協会	踏切遮断時間予測を活用した遮断時間表示システムの高度化に関する検討	28	1	99.4%
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					